

【山口県障害者交流風船バレー大会競技規則】

公益社団法人山口県障害者スポーツ協会

1：設備と用具

- (1) コート
バドミントンコートを使用する。
- (2) ボール
鈴 2 個入り風船（直径 40 cm）を使用する。



2：競技方法

- ① 予選はリーグ戦で行い、決勝トーナメントを行う。
- ② 組み合わせについては主催者で決定する。
- ③ ①については参加チーム数によっては変更する場合がある。

(1) チーム編成

- ① 競技は6人で行うこととする。
- ② チームの編成は監督、コーチを含めて12人以内とする。なお、監督、コーチも試合に参加できるものとする。
- ③ HPは3人以上とし、障害者に限る。APは3人以内とし障害の有無を問わない。

(2) 試合時間

- ① 試合は1セットマッチで1セット15分間とする。

(3) 勝 敗

- ① 15点先取したチームの勝ちとする。ただし試合時間が終了した場合はその時点で得点の多いチームを勝ちとする。
- ② 試合時間を過ぎて同点でのラリー中はそのまま試合を継続し、得点が入った時点で勝敗を決める。但し、5分を経過しても得点が入らない場合は試合を終了し、代表者によるジャンケンで勝敗を決定する。

(4) サーブ方法

- ① サーブ権は試合開始時に代表者がジャンケンで決める。その後は得点したチームがサーブ権を持つ。サーブ権と得点はない関係がない。
- ② サーブは2本制とする。（ネットインは認めない）
- ③ 1点ごとのローテーション方式とする。（HP→AP→HP→APの順番で行う）
- ④ APはサービスライン後方から行うが、HPはサービスラインの内側から行ってもよい
- ⑤ HPは他の人がトスを上げたりサーブ直後に他の人がもう一回打ってもよい。

(5) 返 球

- ① チーム内全員が風船に触れること。但し8回以内に返球すること。
- ② 1人2回まで触れてよいこととする。但し、連続2回は反則とする。

(6) アタック

- ① HP・APともサービスライン後方からとする。

(7) 選手交代

① 選手交代は審判の許可を得て行う。(但し試合時間終了3分前からは認めない)

(8) 作戦タイム

① 認めない。

3：反則

以下の反則があったときには相手チームに1点を加算し、同時にサーブ権も相手チームが持つこととする。

(1) オーバータイムス

8回以内で相手コートに返球できなかつたとき、また同一選手が3回以上風船に触れたとき。

(2) ナットオール

相手コートへの返球までにチーム内に1回も風船に触らない人がいたとき。

(3) ドリブル

同一選手が連続2回風船に触れたとき。但しHPは明らかに故意の場合のみ反則とする。

(4) ホールディング

風船を握ったり、風船が体の上で止まったりしたとき。

(5) タッチネット

ネットに体の一部が触れたとき。

(6) オーバーネット

ネットの上から相手コート上にある風船に触れたとき。

(7) インターフェア

故意にネットの下から足などを相手コートに出して相手選手のプレーを妨害したとき。

(8) ナットパス

HPに故意に風船をぶつけたとき。

(9) ダブルフォルト

サーブを2回とも失敗したとき。

4：その他

(1) ノータッチ風船が車椅子に当たった場合は触れたことにならない。またプレーとしてもカウントしない。

(2) 同一チームの2人同時プレー

2回プレーとしてカウントする。

(3) アウト・オブ・バウンズ

風船がコート外の床、コート外のもの、ネットの支柱に触れた場合はアウトとする。

(4) ノーカウント

風船が割れたとき、風船がネットに引っ掛かった時、その他ゲームの進行に支障が生じたとき等は主審の判断で得点を付けず、プレーをやり直す。